

熊本地震被災文化財への技術的支援

災害による悲しいニュースを耳にすることがしばしばあります。奈良文化財研究所では、被災した文化財の保護を目的とした多様な活動を進めてきました。遺跡・調査技術研究室では、被災した遺跡の現況把握のための迅速な状況計測と、発掘調査等によってあきらかになる災害痕跡の分析や統合による災害考古学の研究等を通じて、文化財の保護に資する研究をおこなっています。

熊本地震については、熊本城をはじめ多くの文化財や遺跡に被害が出ています。私達は熊本県や県内の市町村、文化庁等と連携して、これらの被害の把握や対応のための基礎情報の取得を通じて支援を進めています。昨年度は研究室の機材を長期間熊本県に移動させて、被災古墳の状況調査に対する支援をおこないました。

井寺古墳では、周辺の計測と地中レーダー・電磁探査をおこない、亀裂の入る墳丘の表面の情報に加えて、地中の石室の状況をあきらかにすることができました。塚原古墳群と小坂大塚古墳でも同様に周辺の計測と地中レーダー探査をおこない、地下の情報をあきらかにし、現在地表で観察できる被害の要因についての検討を進めています。

しかし、地震でいかに変化したのか、という点は災害以前の情報がなく、わからないのが残念です。遺跡保護には平時からの情報収集が大切なことを痛感しました。被災地域で苦闘されている担当者の方々にいかに支援をすることができるのかと日々考えながら、活動を続けています。

(埋蔵文化財センター 金田 明大)



井寺古墳の地中レーダー探査風景 (空中ドローンより)